

「補助金に頼らない町づくり」

岩手県紫波町

「議会と震災復興」

福島県いわき市

平成 27 年 6 月 30 日～7 月 2 日

平成 27 年 6 月 30 日から 7 月 2 日 行政視察に行ってきましたので報告します。(詳しい内容は町ホームページ 議会 にあります。)

今回の行先とテーマは、岩手県紫波町「補助金に頼らない町づくり」と、福島県いわき市「議会と震災復興」です。

岩手県紫波町は県庁所在地である盛岡市と宮沢賢治で有名な花巻市の中間にある、人口約 3 万 4 千人の比較的大きな町で、緩やかにではありますが人口増加を続けています。公民連携や協働に力を入れ、様々な成果が得られています。

紫波町が勧めている「オガールプロジェクト」が、「官・民協働」により可能な限り補助金に頼る事無く事業を推進することで、行政コスト低減をはかり、同時に町民参加による「町づくり」を推進する手法として、今日本中から熱い視線を集めています。

「オガールプロジェクト」とは奇妙な名前ですが、簡単に言えば、「紫波中央駅前都市整備事業」のことであり、行政と民間業者が第 3 セクターを作って、それぞれの持ち味を生かして成果を出すための取り組みです。

第 3 セクターは永い歴史がありますが、多くが上手くいかなかったことから、否定的にとらえられていますが、やり方次第では必ずしもそうではない事を知り「目から鱗」でした。

このプロジェクトは、強いリーダーシップを持つ町長と岡崎氏という稀有な人材の絶妙な取り合わせによるところ大ですが、長期に亘って進めてきた、「官・民協働」の成果であることも見落とせません。

(文責 小池 勇)



岩手県紫波町体育館にて

2 日目は福島県いわき市です。

今回の目的は、いわき市議会の皆さんが、震災直後からどのような取り組みをされたのかを研修し、富士見町議会として今後の災害対策の参考になる点を見つけ出す事でした。

いわき市は昭和 41 年に 14 の市町村の大合併により誕生した市であり、人口は 33 万人である。

この地方は温暖な気候と豊かな自然に支えられ、太古の時代から人々の暮らしがあり、武士の世界では東北の重要拠点として明治まで続いていた。

近代では豊富な石炭資源と港を中心に発展してきたが、やがて石炭産業の斜陽化があったが工業再配置により工業団地に変貌し発展している。

■いわき市議会の大震災への取り組み状況

- ・ 対策本部の設置
- ・ 市の対策本部と協議会開催
- ・ 特別委員会の設置
- ・ 原子力発電所の現場視察
- ・ 県及び市への要望書提出
- ・ 市議会としての危機対策に関する指針の制定
- ・ 市議会危機対策本部に関する要綱の制定

■いわき市の現状

- ・ 市としての被害状況：死亡者 560 名 家屋全壊 8000 棟
- ・ 要望として、風評被害に苦しんでいる現状を理解していただき特に福島県産の農産物でも市場に出回っているものは安全である事をアピールしてほしいと言われました。



被災した豊間中学校の解体現場

富士見町議会の取組

いわき市での指針及び要綱を基に、現在議会改革委員会にて、富士見町版の検討を開始しました。

制定されましたら、皆様に改めてお知らせいたします。

(文責 名取久仁春)